

(個人研修) 坂田 猛

研修テーマ：自己決定を尊重する在宅支援と福祉機器について学ぶ

研 修 地：デンマークボーゲンセ・コペンハーゲン（4月29日～5月10日）

カナダトロント（5月13・14日）

アメリカサンフランシスコ（5月16・17日）

【研修の目的】

福祉先進国のデンマーク、その他の国で患者の自己決定を尊重する在宅支援の考え方や文化、システムを学び、その一躍を担う福祉機器についても学ぶ

【研修内容】

社会福祉関連の受講や見学：デンマーク

①SOSU 福祉・教育の授業：それぞれの生徒が意見を交わしつつ集約して、福祉・教育の授業とする

Momoyo 氏のファシリテーション能力が素晴らしかった。

②オーデンセ補助器具センター・ショールームの見学。所属理学療法士と意見交換をし、

様々な補助器具、生活環境の福祉機器を見せていただいた。

補助器具の数の多く、また、それらの機器を、モデルルームに配置することで、使用者が理解しやすいような工夫もなされていた。

相談者がいつでも来訪しやすい環境づくりとその努力を行っていた。



補助器具センター外観、ショールーム

その他の Nordfyns Højskole の講義を受講：Mountainbike、日本語教室、Practical sustainability

それぞれの授業では身体活動、実用的な持続可能性などがテーマとなっていた。特に日本語教室では、指導者の指導方法と生徒に興味を持たせるための工夫がなされ、訪問リハの臨床現場で応用できる考え方として捉えられた。

在宅生活されている患者のご自宅を訪問：

重度障害で在宅支援を受けながら在宅生活をされている方のご自宅訪問。本人や介助者と意見交換をする機会を得た。一人の人間を生活しやすい状況にするという考え方が、訪問リハを提供する自分にとって納得ができると同時に、支援の手厚さに感心した。



福祉機器施設、その他各施設の見学：

① 脳性麻痺の方の研究施設(Elsass Foundation)を訪問

研究と臨床、支援、宿泊がひとまとまりとなっていた。スタッフとの意見交換も行え、治療デバイスの制作や実験、環境調整の実例などを交えて幅広く見学できた。

② リフト機器の企業(Guldmann)を訪問

リフト機器の会社を訪問し、担当者との意見交換と製品や工場見学を行った。一人一人にカスタマイズされたリフトの種類の高さやリフトの使い方の多様さに感心した。



Elsass Foundation



様々なリフト機器

③ トイレの福祉機器の企業(Pressalit)を訪問

トイレ機器の会社を訪問し、担当者と意見交換、製品や工場見学。フレキシブルな対応が可能な製品や行動を予測した使いやすさを考えた形状の工夫など、感心させられた。



カナダトロント

Toronto Rehabilitation Institute
(トロントリハビリ病院)

研究所と臨床が近く、研究成果を活かした治療に取り組みされており、連携しやすさがうかがえた。患者の顔が明るく、身体機能を補助するデバイスを当たり前で使用していた。



リハビリ病院

アメリカサンフランシスコ

Los Altos High School

友人在籍の高校を訪問。障害者学生のためのスロープ、トイレ、避難のための階段昇降方法、トレーナーとの意見交換など、様々な体験ができた。



障害者用非常階段表示

【研修後について】

在宅支援の現場で働いていると、様々なやりにくさを感じていた。デンマーク、その他の国では、教育、医療、支援・介護の連帯の考え方が関係者に浸透し、また、それを現場で目の当たりにすることで、言葉だけの「自己決定の尊重」や「寄り添う」を知識から、知見に変わった。それにより、自分の問題点が明確となり、今後の仕事の仕方やチームアプローチの欠点を認識できた。